

今後の展開について



2008年7月

1. DSRCを巡る最近の動向 (ITS車載器に係るJEITA規格の改訂)

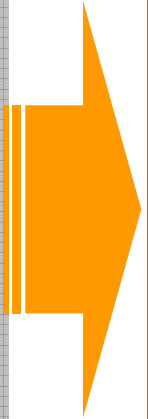
スマートウェーサービス本格運用に向けて、発話型車載器に関する新たなニーズへの対応や首都高での公道実験結果を踏まえ、ITS車載器に係る現行のJEITA規格を改訂し、「ITS車載器標準仕様書A版(2.0版相当)」を2008年7月4日に発行

[JEITA規格の概要(2007年3月制定)]

- ITS車載器標準仕様 [TT-6001]
ITS車載器全般の必要条件や機能要件について規定
(機器構成、インタフェース、信頼性、サービス対応機能等)
- ITS車載器DSRC部標準仕様 [TT-6002]
ITS車載器のうち、DSRC部における基本API、DSRC制御、ETC処理、アプリケーション処理等について規定
- ITS車載器カーナビ部標準仕様 [TT-6003]
ITS車載器のうち、カーナビ部におけるインタフェース、ナビデータ処理等について規定
- ITS車載器用音声合成記号 [TT-6004]
ITS車載器で扱う音声合成記号について規定



図 JEITA規格(TT-6001、TT-6002、TT-6003、TT-6004)



[改訂仕様書]

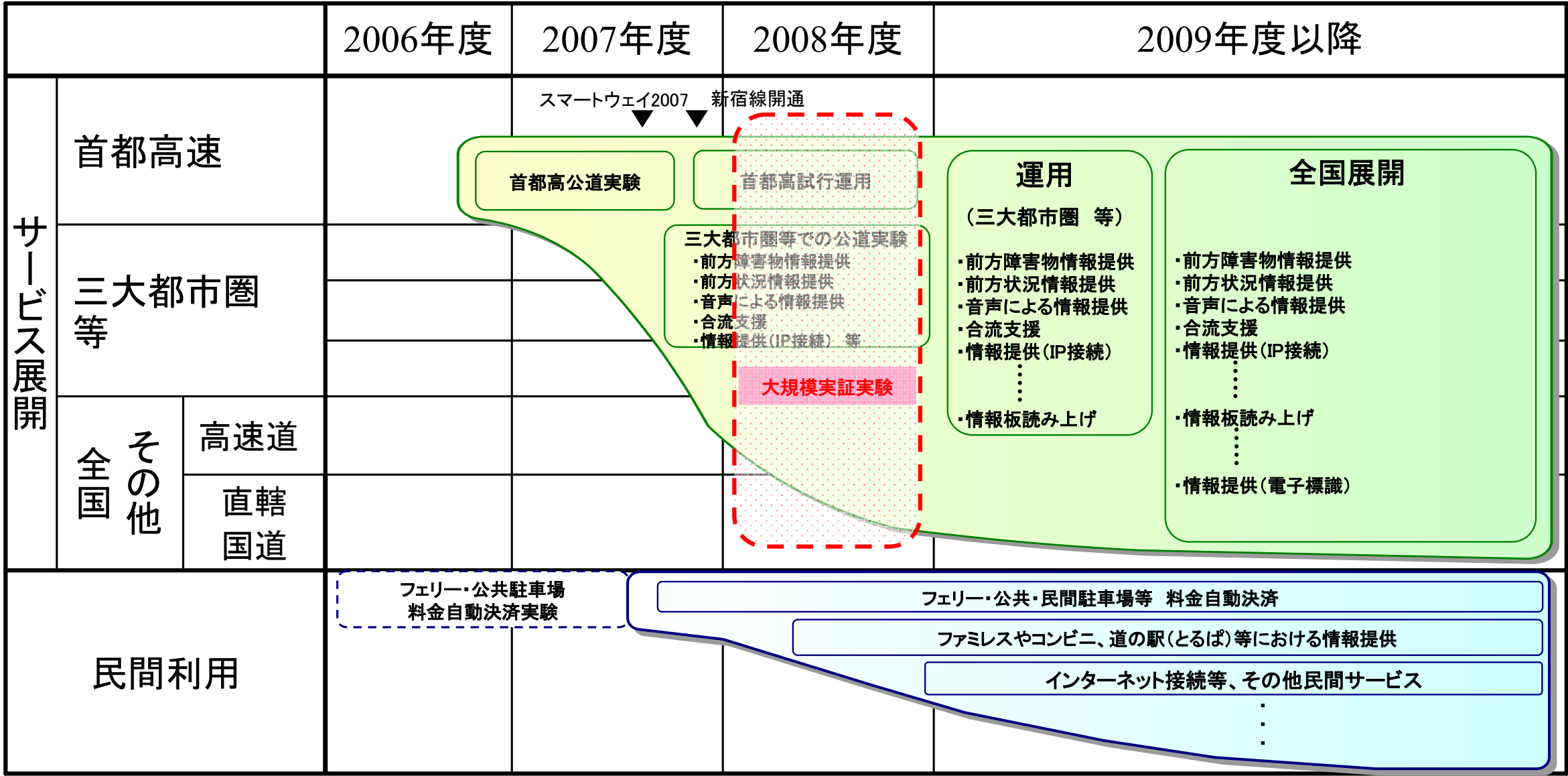
TT-6001A、TT-6002A、TT-6003A (※今回TT-6004は改訂しない)

[主な改訂内容]

- 1 ITS車載器の定義見直し
発話型車載器に該当するITS車載器の定義を追加
- 2 アップリンク機能における要件追加
アップリンク情報項目について、発話型車載器に対応する情報項目を追加
- 3 ダウンリンク機能における要件追加
 - ・安全走行支援情報量の上限値を規定
(走行中の安全運転支援情報について、センター系、ローカル系における情報量の上限を規定)
 - ・情報の優先度に応じたITS車載器の挙動の規定
 - ・発話型車載器独自の機能要件を規定
(発話型車載器は、車載器単独での方向識別が困難であり、反対車線等の路側機からの情報を再生しないための対策を講ずる必要がある等、発話型車載器独自の機能要件を追加)
 - ・適切なタイミングで安全運転支援情報を提供する仕組みを規定
(旧規格で推奨している安全情報の通知時間(データ受信後1秒以内)の要件に加え、通知前に専用のアラーム音を鳴動することや有効距離を超えた場合は表示をとりやめる等の要件を追加)

2. 新たな路車協調システムの展開イメージ

- ・ 08年度は、実証実験地域を三大都市圏等へ拡大し、これを積極的に推進
- ・ 実験結果を踏まえ、IT新改革戦略に定められた「2010年度からの事故多発地点を中心とする全国への展開」を着実に実施するため、道路会社との役割分担を踏まえ、整備効果を検証しつつPDCAサイクルにより順次展開
- ・ あわせて民間利用も促し、車載器の普及を加速



3. 今後の検討事項

- ・ 実験結果を踏まえた、地域でのスマートウェイの着実な展開
- ・ 官民の取組の相乗効果による、サービス効果の早期発現と普及
- ・ 関係省庁と連携し、効率的なサービス展開を図る

◆次世代道路サービスの展開

- ・ 次世代道路サービスの各地での実験および試行運用を推進するとともに次世代道路サービスの展開計画(VICSの2.4GHzから5.8GHzDSRCへの移行手順を含む)を道路会社とともに検討し、具体化する。
- ・ 関係省庁との連携強化
- ・ 民間サービスへの展開支援

◆地域におけるITS活用支援方策

- ・ 地域の社会的課題解決に向けた支援策の検討

◆国際戦略の推進

- ・ 国際標準化の推進と諸外国へのITS技術支援による市場拡大

4. 今後取り組む重点施策

○ データの共有・相互利用による情報の高度化

官が保有するプローブ情報(道路交通情報)やトラック事業者、タクシー事業者等の民間事業者が保有するプローブ情報等の共有・相互利用や様々な活用方策を検討し、道路交通の更なる円滑化を図る。

【参考】

社会還元加速プロジェクトロードマップ
(平成20年5月19日総合科学技術会議本会議報告)

「情報通信技術を用いた安全で効率的な道路交通システムの実現」
～ 環境・安全・国際競争力・地域活性化 ～ <抜粋>

(3) 具体的な取組み

② 都市交通の革新

(i) 様々な交通流情報の高度利用促進

民間で取組みが進められているプローブ情報についてデータ・フォーマットの標準化やデータへのアクセス・ルールの確立など情報の共有と相互利用に係る検討などを行う。また、従来型のデータとプローブ情報との連携やプローブを活用したモニタリング技術等、様々な活用方策についても検討する。

- プローブ情報の共有と相互利用の検討
- 様々な交通流情報の活用による交通シミュレーションの高度化
- 動的経路案内へのプローブ情報の活用
- 信号制御への活用

社会還元加速プロジェクトITSタスクフォース

リーダー: 奥村 総合科学技術会議議員
 サブリーダー: 渡邊 トヨタ自動車技監
 専門家: 大西教授(東京大学)、川嶋教授(慶応大学)、苦瀬教授(東京海洋大学)、
 桑原教授(東京大学)、津川教授(名城大学)、寺島専務(ITS Japan)
 関係省庁: 警察庁、総務省、経済産業省、国土交通省、内閣官房、内閣府

【プローブ情報の共有・相互利用のイメージ】

